

N. Nさん

[受験歴]

2015年 大手予備校 1.5年ストレート合格通学コース

一次試験 2科目合格（法務、中小）

2016年 一次試験 合格、二次試験 不合格（BCBB B）

2017年 MMC通学コース

一次試験 受験せず、二次試験 合格

[中小企業診断士を受験した動機]

私はメーカー勤務で、現在は事業管理系の管理職として、経理サービスや予実算等の計数情報を提供し事業運営を経理面からサポートするといった職務に就いています。これまでも20数年間、事業企画管理や海外関係会社総務等の業務を経験してきました。私が中小企業診断士を受験した動機は主に2点あります。

- ① 業務上経理的な相談をよく受けますが、相談内容の本質は経営方針、事業戦略、マーケティング、生産戦略等多岐にわたる問題が背景にあることが多いため、事業にとってより良い課題解決となる助言・提言ができるようになりたいと思い、診断士の勉強を通じ、「自分の専門知識の幅を広げて業務スキルを向上したい」と考えたこと。
- ② これまでの業務で得た知識・経験を棚卸して、体系的な企業経営全般の知識を習得し、「将来にも活かせる資格取得」という目に見える形にしたいと考えたこと。

[MMC受講のきっかけ等]

2次試験初年度は、1次合格後から大手予備校の2次試験対策講座を受講しました。しかし、各事例の設定の題意や解答のポイントが理解できず、雲をつかむような感じの状態、「どうやったらこんな一本の細道を渡るかの如き解答が書けるのか？」と予備校の過去問5年分模範解答例を腹落ちしないまま一応の型として覚えて本番に臨みましたが、結果はあえなくBCBBの不合格でした。おめでたいことに、その時は合格発表まで「もしかして合格しているかも？」との淡い期待を抱いていましたが、現実には「箸にも棒にもかからないような内容の解答レベル」であったことが判明し、完全な実力不足・準備不足を改めて認識しました。

このまま大手予備校での学習をもう1年続けても到底合格水準の答案が書けるようになる気がせず、また、せっかく2次試験をもう一回受ける権利を確保したので「1年間は集中して2次試験で問われていることの本質を理解し、解答までのプロセスを正しく身に着けたい」と考え、解法が確立しており丁寧な指導が期待できそうな2次試験の専門校をネットで探しました。評判が良さそうなMMCの講座説明会に参加し、「事例解法の基本的な考え方」や「合格の鉄則」「MCサークル」等さわりの紹介を聞いて、「探していた学習方法はこれだ。」と確信し、通学講座を受講することにし

ました。解法がシンプルでわかりやすいことに加えて、毎回の講義で行う答案練習の即日アドバイス付返却サービスや、合格率の高さもMMCを選んだポイントでした。

[2次試験対策の学習法]

① 学習スタイル

平日は出勤前2時間自宅とカフェで自習、日曜日はMMCの通学クラスで学習、直前期やMMCが無い土日は図書館で自習、というスタイルで週に20時間程度の学習時間を確保するように努めました。業務繁忙期や飲み会の多い時期等は早朝の自習時間の確保が困難なこともありましたが、MMCの通学だけは無欠席で通い続けました。学習ペースの維持という点では、通学コースを選んで良かったと思います。

② 学習方法

MMCの講義受講とその復習が中心で、教材もMMCのものだけを利用しました。事例Ⅰ～Ⅲについては、特に重視して取り組んだのは、講義・模試で取り組んだ答案練習の「再答案学習」と「キーワード・マトリックスの整理」です。過去問については、MMCで添削をしてもらえる直近5年分は3回転廻しましたが、それ以前のものについては設問からの題意読み取りや解答パターンの分析、出題傾向の把握にとどめ、設問全てをしっかりと解くことはしませんでした。事例Ⅳについては、主に直前期に、毎回の講義で配布される「応用計算問題」の演習を繰り返しました。

[2次合格のために特に留意した点]

① 答練・模試の成績順位へのこだわり

2次は相対試験であり上位2割が合格する試験です。MMCでは受講者の4割が受かるとの評判でしたが、毎回成績順位発表のある答案練習や、模試等で、上位2割以内の順位に入ることを目標としました。クラスの方々は頭の回転が速く優秀な方が多い印象で、「このメンバーの中で上位2割に入る力を付ければ本番でもまず合格圏内に入るだろう。」と考えました。しかし、MMCの解法が身につけていなかった5月頃までは成績は安定せず、苦手だった事例Ⅰや事例Ⅱは平均～下位の順位を低迷することが多く、「焦ってもしかたない。そのうち成果も出るだろう。」とMMCの教えを信じて地道に学習を続けました。解法が安定し、キーワード、文章の金型化に習熟してくると成績も安定し始め、8月以降は、いつの間にか苦手だった事例Ⅰが最も得意科目となり、上位5%以内に、他の科目も概ね上位2割以内に入るようになりました。因みに4回のMMCでの模試の総合順位は、上位3割→2割→1割→7%といった推移を辿り、学習効果を実感するとともに自信をもって本番に臨むことができました。尚、先生達から「あまりお薦めしない」といわれた他流試合（大手予備校の模試）にも2回出かけたのですが、上位4割（5月）、3割（9月）といまひとつの出来でした。予備校間の解法や採点基準の違いと割り切り、悪い結果は都合よく忘れることにしました。

② 再答案学習

MMCでは、「高得点答案作成の技術定着」のために、答練や模試で返却される自分の答案（大体が60点前後）を改善した再答案を作成し、もう一度添削してもらうことができます。添削はコメント付きで約1週間後に帰ってきますが、模範解答などを参考にし、時間も十二分にかけて作成しているにも関わらず簡単には80点（MMCでの満点）はもらえません。

また、毎回の答練ではクラスの最高得点の方の答案が配布されますがこれが再答案学習の際に大変参考になります。「同じ受講生が80分内で解答したもの」なので、模範答案よりも「親近感を覚える答案」だったり「汎用性が高く是非真似したい見栄えの良いフレーズ」だったり、自分の答案に欠けているものや答案改善のヒントが得られます。

再答案学習を重ねるにつれて、高得点になる答案とはどんなものかがだんだんわかってきます。結局は、「設問の題意を正しく捉え」、「与件との因果関係が明確で」、「切り口が美しく」、「ビシっとしたキーワードで締めた答案」、つまり「わかりやすく説得力ある答案」が「高得点答案」だという結論に至り、MMCの教えの正しさに対する納得感・腹落ち感が生まれました。コツをつかんだ学習後期になると、中々満点をくれない辛口添削の中居先生からも、80点満点をたまにはもらえるようになり、思わず小さくガッツポーズでした。いつしか「再答案で80点満点を目指す」という小目標が、答案作成技術のアップと学習意欲向上の両面で大きな助けになっていました。

③ キーワード・マトリックスの整理と文章の金型化

MCサークルの切り口に沿って事例ごとのキーワードを整理し、文章の金型化を図るというMMCお薦めの学習方法も取り入れました。自分なりの工夫としては、MMCのSTEP1からSTEP4、直前対策、各模試の答案すべてから、自作のキーワード・マトリックス表をEXCELで作成したことです。「再答案学習」と同タイミングで取り組み、「マイ文章金型」とするべく繰り返し「切り口」「与件」「キーワード」の組み合わせを写経し、暗記に励みました。得意な「キーワード」や「文章金型」を絞りこみ、自由自在に使いこなせるようになった結果、答案品質が安定し、答案作成時間の短縮にも劇的な効果が現れました。80分内に空欄を作らずに解答ができるようになり、答練の得点も安定して概ね60点以上が取れるようになったのです。

ここで作ったキーワード・マトリックス表は、いわゆる「ファイナル・ペーパー」として、模試はもちろん本番の試験にも持ち込み、お守りのようなものとなりました。

④ 過去問対策

前述のとおり、私はMMCの教材を中心に学習を回し、過去問については直近5年間分以外しっかり解きませんでした。過去問を軽視したわけではなくMMC教材復習の為時間不足だったからです。第3回模試(8月)の個別アドバイスの時に大谷先生に相談したところ「MMCの答練には過去の本試験のエッセンスが全て詰まっている。本

試験よりもむしろ設問の制約が厳密。過去問とMMCの教材どちらかしかやる時間がないのなら、MMCの教材に取り組むことをお勧めします。」とのアドバイスを頂きました。そのあたりの時期には、「もうここまできたらMMCの教えを徹底的に信頼しよう。毒を食らわば皿まで。」的な発想になっており、上記の通り、MMC教材を用いた「再答案提出」と「キーワード・マトリックス整理」の方を優先的に学習しました。

そして、過去問については、設問から題意の読み取りや、解答パターンの分析、出題傾向の分析などに使いました。具体的には、MMCの過去問の模範解答集（過年度分全て）の解答の脇に全設問を書き込み、設問と解答の組み合わせを何度も読み込みました。これを模試や本番試験の直前に行うと効果があり、私の定番の対策となりました。

⑤ 事例Ⅳ対策

事例Ⅳについては、業務上なじみも深く他の事例よりは得意科目意識があったため、当初あまり学習に重点をおきませんでした。しかし、6-7月のSTEP4辺りの難易度が上がった答練では、計算ミス連発や時間切れによる空欄続出を重ねて高得点どころか50点割れとなり、足を引っ張る不得意科目化しそうな時期がありました。答案返却の際に、中居先生が何故計算ミスをしたのか計算プロセスと一緒に確認してくれ、「ほらここです。我々はもういいおっさんですよ。暗算やめてちゃんと電卓叩きましよう。文明の利器を使いましょう。」とアドバイスしてくれました。この後は、実力不相応な高得点狙いをあきらめ、難問は捨て、易しめの問題を丁寧に回答することで、確実に60点以上を得点する方針に切り替えました。毎回の講義で配られる「応用計算問題」を何度も繰返しCVP、CF、NPV等の頻出問題への対応に注力しました。

[2 次筆記試験本番と合格発表]

① 2次筆記試験本番

MMCの「直前スパーリング」に参加した時に配布された先生方からの応援メッセージ集「明日のために」を読んで心を静めながら、試験会場の立教大学に向かいました。「平常心でこれまで勉強してきたことを出し切ろう。」という比較的落ち着いた心もちで受験には臨むことができました。

本試験では、各事例の設問が従来とは微妙にパターンや表現を変えて出題されておりサプライズの連続でしたが、MMCの講義での先生方からの教え「設問の表現が多少変わっても、問われることの本質は過去からずっと変わらない。」を思い出し、準備してきた解法でかなりの問題に対応できそうだと確認することで落ち着きを取り戻すことができました。事例1（問5）「組織・人事課題」、事例2「ターゲット+4P」、事例3（問1&問2）「生産計画、生産統制、作業管理」等の設問は、さんざん練習してきた通り、切り口やフレーズを使いキーワードと与件文の重要な箇所の言葉を引っ張ってくる、といういつもの解法で自信を持って解答を書くことができました。事例4（問4）「連結決算」は本当のサプライズで空欄も作ってしまいました

が、(問2)CVPと、(問3)NPVで粘れば何とかなるかもしれないと最後まであきらめることなく頑張りました。試験終了直後は、MMCでの1年間の勉強の成果を出し尽すことができたという充実感とそれなりの手ごたえを感じることができました。

しかし、帰宅して再現答案を作成してみると、随所でポカミスをやらかしていることに気が付いてしまい大変なショックを受けました。事例Ⅰでは、設問の制約条件の「最大の要因」の「最大」を見落としており、事例Ⅱでは、事例文の中にあつたあからさまな「日用品販売活用」のヒントを見逃し、事例Ⅳでも、取替投資のNPVで「計算ミス」をしていました。この時点での感触は「5分5分」でした。

② 2次筆記試験合格発表

試験日から合格発表日までは、MMCや予備校の模範解答を眺めては一喜一憂する日々で、合格発表当日は、落ち着かないので午前中は半休をとってしまいました。診断士協会の合格発表者のサイトに恐る恐るアクセスし、自分の受験番号をどきどきしながら探しました。「お、あつた！」間違いではないかと何度も番号を確認しました。

それから家族と中居先生に合格連絡をいれ、「おめでとう」と言ってもらい、やっと「合格したんだ。」という実感と嬉しさがこみあげてきました。

③ 終わりに

緊張しまくりの口述試験にも無事合格し、「中小企業診断士第2次試験合格書」を年末に受領し、穏やかな気持ちで年越し、正月を迎えることができました。

思い起こせば診断士試験に取り組んだ2年半の間は、数十年ぶりに本格的な勉強に取り組んだ充実した時間でした。とりわけMMCで学んだ1年間は有意義に楽しく過ごすことができました。毎回の講義では、必ず「目から鱗」的な気づきがあり非常に新鮮でした。地道に繰り返した学習成果として、診断士として必要な基本スキル習得と、当初目指した通り現職務での業務スキル向上、いうご褒美を頂くことができました。また、MMCのクラスで出会った方々から良い刺激を頂いたことや、クラスで知り合い親しくさせて頂いた方との交流も大変貴重でした。そして、親身で熱意ある指導により私を合格に導いて頂いた先生方には、感謝の念しかありません。また、今回の挑戦を応援し続けてくれた家族にも言いたいです。

「ありがとうございました。」